岐阜大学機関リポジトリ
Gifu University Institutional Repository

上皮小体 water-clear cell の脊椎動物における分布状況とその成因

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2008-03-12
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 江村, 正一
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/159

はしがき

最近，マスコミにおいて高齢化が社会問題として大きく取り上げられている。当然，高齢化社会とは老人（６５歳以上）の占める割合が大きいわけであるから，社会問題のみならず医学的にも老化現象にともなう様々な問題が出できた。特に，老化による骨カルシウムの減少すなわち老人性骨粗症が，医学会のみならずマスコミにおいても大きくクローズアップされている。

カルシウム代謝において特に重要な役割を演ずるのは，血中カルシウム濃度を上昇させるパラトルモンを分泌する上皮小体，逆に減少させるカルチトニンを分泌する旁濾胞細胞そしてビタミンＤである。我々は長年にわたり，このうちの上皮小体についてその形態，特に電子顕微鏡による超微形態について，種々な動物の上皮小体を観察し，さらには様々な実験をとおしてその変化を観察してきた。

これまで，上皮小体の存在する両生類から哺乳類にいたる全動物において実質細胞を構成している細胞は，主細胞，酸好性細胞，ヒトにおいて時に見られるwater-clearcellおよびイモリにおけるbasal cellであった。ところが，我々は最近の研究において，ゴールデン・ハムスターおよびウサギにおいてwater-clear cellの存在を確認した。さらに進んでそれらの細胞の起源，絶食あるいはストレプトゾトシン投与の影響，光学顕微鏡による検出の可能性についても研究を行い成果を得た。

今回の科学研究費，一般研究（Ｃ）による「上皮小体water-clear cellの脊椎動物における分布状況とその成因」の研究成果報告書は，これまでの成果に平成５年度から平成６年度の２年間にわたって行った成果をまとめて作成したものである。

研究組織

研究代表者：江村正一（岐阜大学医療技術短期大学部・教授）

研究経費

平成５年度	1,０００千円
平成６年度	1,０００千円
計	2,０００千円